

医学教育分野別評価

2024 年度 年次報告書

医学教育分野別評価の受審：2018 年度（平成 30 年度）

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 2

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 36



令和 6 年 8 月

宮崎大学医学部医学科

はじめに

本学医学部医学科は、2018年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2019年6月1日より7年間の認定期間が開始した。医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.35 を踏まえ、2023年度の年次報告書を提出する。

なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2023年6月1日～2024年5月31日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.36 の転記は省略した。

1. 使命と教育成果

改善した項目

| 1. 使命と教育成果 | 1.2 大学の自律性および学部の自由度 |
|---|---------------------|
| 質的向上のための水準 判定：適合 | |
| 改善のための助言 | |
| カリキュラムについて検討する際に、教授以外の教員、幅広い学生からの自由な意見を反映することが期待される。 | |
| 改善状況 | |
| 基盤形成教育連絡協議会の規程を見直し、基盤形成教育科目の授業計画や成績評価だけでなく教育課程を審議できるようにし、さらに基盤形成科目の責任者は、事前に各科目の構成員となる教員から意見を集約した上で協議会に出席するよう改正を検討している。 臨床講義連絡協議会の規程を見直し、臨床講義の授業計画や成績評価だけでなく、教育課程を審議できるようにし、さらに臨床講義の責任者は、事前に各科目の構成員となる教員から意見を集約した上で協議会に出席するよう改正を検討している。 (※いずれの規程改正も令和6年7月教授会で承認済み) | |
| 今後の計画 | |
| 今後も教授以外の教員、幅広い学生からの自由な意見を集めながら反映させる。 | |

| |
|--|
| 改善状況を示す根拠資料 |
| 資料1 宮崎大学医学部医学科基盤形成教育連絡協議会規程及び宮崎大学医学部医学科臨床講義連絡協議会の一部改正（案） |

改善した項目

| | |
|---|-----------------|
| 1. 使命と教育成果 | 1.3 学修成果 |
| 基本的水準 判定：部分的適合 | |
| 改善のための助言 | |
| 学修成果を周知するような取り組みを実施すべきである。 | |
| 改善状況 | |
| 「医学研究者育成コース」及び「研究室配属」で得られた学修成果を周知する「研究成果発表会」を実施した。海外に派遣された学生による成果報告会も実施した。早期大学病院実習に参加した学生のアンケートを附属病院運営審議会で報告した。 | |
| 今後の計画 | |
| 今後も学修成果を周知するような取り組みを継続して実施する。 | |
| 改善状況を示す根拠資料 | |
| 資料2 令和5年度医学研究者育成コース研究発表会プログラム | |
| 資料3 令和5年度研究室配属海外派遣報告会 | |
| 資料4 病院運営審議会次第（令和5年9月20日）（一部抜粋） | |

2. 教育プログラム

改善した項目

| | |
|---|---------------------|
| 2. 教育プログラム | 2.1 プログラムの構成 |
| 基本的水準 判定：部分的適合 | |
| 改善のための助言 | |
| 学修成果と各科目の学修目標との関連について学内で合意を得て、意図する学修成果が得られるように学修成果基盤型カリキュラムを構築すべきである。 | |

| |
|---|
| 改善状況 |
| 令和6年度入学生から「令和4年度改訂版：医学教育モデル・コア・カリキュラム」の適用が開始されることを受け、教務委員会において現行カリキュラムとの擦り合わせを含めた「カリキュラムマトリックス」の作成をする際、アウトカム基盤型教育の考え方に則った「学修目標の第4層」と「各担当科目の教育内容」を照らし合わせ、シラバス等をもとに暫定記入された内容に過不足があるか各科目責任者に点検を依頼した。 |
| 今後の計画 |
| 今後もカリキュラムの点検を行い、意図する学修成果が得られるように学修成果基盤型カリキュラムを構築していく。 |
| 改善状況を示す根拠資料 |
| 資料5 カリキュラムマトリックス作成に向けた協力依頼 |

改善した項目

| | |
|---|---------------------|
| 2. 教育プログラム | 2.1 プログラムの構成 |
| 基本的水準 判定：部分的適合 | |
| 改善のための助言 | |
| 学生が自分の学修過程に責任を持てるように能動的学修を推進すべきである。 | |
| 改善状況 | |
| 令和6年度から改編された教養教育カリキュラムにおいて、医学部学生にはアクティブ・ラーニングの手法を取り入れた科目「地域キャリアデザインI（キャリア）」を必修とした。 全学の宮崎大学教育委員会で作成した「主体的な学びを实践するために」を新入生オリエンテーションにおいて配付した。 | |
| 今後の計画 | |
| 今後も学生が自分の学修過程に責任を持てるように能動的学修を推進していく。 | |
| 改善状況を示す根拠資料 | |
| 資料6 シラバス 2024年度地域キャリアデザインI（キャリア） 資料7 主体的な学びを实践するために | |

改善した項目

| | |
|---|--------------|
| 2. 教育プログラム | 2.1 プログラムの構成 |
| 基本的水準 判定：部分的適合 | |
| 改善のための助言 | |
| 科目内での教育内容の順次性を学生が学びやすいかどうかの観点で見直すべきである。 | |
| 改善状況 | |
| 教育プログラム評価委員会及び学生会アンケートを通じ、3年次の「病理学」について、以前は前期・後期通年で実施していた内容が前期に集約された現行カリキュラムは学生の負担が大きいため見直しが必要との見解に至った。「病理学」20コマ分をスライドして2年次後期に開講、3年次前期までの科目に変更した。 | |
| 今後の計画 | |
| 今後も科目内での教育内容の順次性を学生が学びやすいかどうかの観点で見直していく。 | |
| 現在の状況を示す根拠資料 | |
| 資料8 医学科：カリキュラム改善（案）について | |

改善した項目

| | |
|---|--------------|
| 2. 教育プログラム | 2.1 プログラムの構成 |
| 基本的水準 判定：部分的適合 | |
| 改善のための助言 | |
| 同時期に行われる科目同士の教育内容の順次性を見直すべきである。 | |
| 現在の状況 | |
| 教育プログラム評価委員会及び学生会アンケートを通じ、3年次の「病理学」について、以前は前期・後期通年で実施していた内容が前期に集約された現行カリキュラムは学生の負担が大きいため見直しが必要との見解に至った。「病理学」20コマ分をスライドして2年次後期に開講、3年次前期までの科目に変更したことに伴い「医科生理学」を2年次前期に開講し、2年次後期まで通年の科目に変更した。 | |

| |
|----------------------------------|
| 今後の計画 |
| 今後も同時期に行われる科目同士の教育内容の順次性を見直していく。 |
| 現在の状況を示す根拠資料 |
| 資料8 医学科：カリキュラム改善（案）について |

改善した項目

| | |
|--|---------------------|
| 2. 教育プログラム | 2.1 プログラムの構成 |
| 質的向上のための水準 判定：部分的適合 | |
| 改善のための助言 | |
| 生涯学習に繋がるカリキュラムとして能動的学修を構築することが望まれる。 | |
| 現在の状況 | |
| 令和6年度から、基礎教育を教養教育としてカリキュラムを再編したが、未来共創科目群には、幅広く長期的な視点で社会課題に向き合う態度や様々なステークホルダーと連携した PBL（プロジェクトベースドラーニング）を通じて、学生同士だけではなく社会人や地域住民等と具体的な課題の解決策を提示する力を育成する科目を設置している。 | |
| 今後の計画 | |
| 今後も生涯学習に繋がるカリキュラムとして能動的学修の構築に向けた活動を継続していく。 | |
| 現在の状況を示す根拠資料 | |
| 資料9 令和6年度以降の教養教育カリキュラムの編成について | |

改善した項目

| | |
|--|-------------------------------|
| 2. 教育プログラム | 2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間 |
| 基本的水準 判定：部分的適合 | |
| 改善のための助言 | |
| 学生がより学びやすいように、科目の順序や科目間のバランスを見直したカリキュラ | |

| |
|---|
| ムを構築し、明示すべきである。 |
| 現在の状況 |
| 教育プログラム評価委員会及び学生会アンケートを通じ、3年次の「病理学」について、以前は前期・後期通年で実施していた内容が前期に集約された現行カリキュラムは学生の負担が大きいため見直しが必要との見解に至り、「医科生理学」を2年次前期に開講し、2年次後期まで通年の科目に変更、さらに「病理学」20コマ分をスライドして2年次後期に開講、3年次前期までの科目に変更した。 |
| 今後の計画 |
| 今後も学生がより学びやすいように、科目の順序や科目間のバランスを見直したカリキュラムを構築し、明示していく。 |
| 現在の状況を示す根拠資料 |
| 資料8 医学科：カリキュラム改善（案）について |

改善した項目

| | |
|---|-------------------------------|
| 2. 教育プログラム | 2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間 |
| 質的向上のための水準 判定：部分的適合 | |
| 改善のための助言 | |
| 関連する学問領域の水平統合を行うために科目間の調整を医学部カリキュラム委員会が行うことが望ましい。 | |
| 改善状況 | |
| 教育プログラム評価委員会及び学生会アンケートを通じ、3年次の「病理学」について、以前は前期・後期通年で実施していた内容が前期に集約された現行カリキュラムは学生の負担が大きいため見直しが必要との見解に至り、「医科生理学」を2年次前期に開講し、2年次後期まで通年の科目に変更、さらに「病理学」20コマ分をスライドして2年次後期に開講、3年次前期までの科目に変更した。 これにより、2年次から3年次にかけて、水平・垂直統合型の有機的なカリキュラム再編がなされることが期待できる。 | |
| 今後の計画 | |

| |
|-------------------------------------|
| 今後も関連する学問領域の水平統合を行うために科目間の調整を行っていく。 |
| 改善状況を示す根拠資料 |
| 資料8 医学科：カリキュラム改善（案）について |

改善した項目

| | |
|--|-------------------------------|
| 2. 教育プログラム | 2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間 |
| 質的向上のための水準 判定：部分的適合 | |
| 改善のための助言 | |
| 学年進行に沿って、学修進度が増し、基礎・社会医学・臨床医学にわたる垂直的統合を医学部カリキュラム委員会が調整することが望まれる。 | |
| 改善状況 | |
| <p>教育プログラム評価委員会及び学生会アンケートを通じ、3年次の「病理学」について、以前は前期・後期通年で実施していた内容が前期に集約された現行カリキュラムは学生の負担が大きいため見直しが必要との見解に至り、「医科生理学」を2年次前期に開講し、2年次後期まで通年の科目に変更、さらに「病理学」20コマ分をスライドして2年次後期に開講、3年次前期までの科目に変更した。</p> <p>これにより、2年次から3年次にかけて、水平・垂直統合型の有機的なカリキュラム再編がなされることが期待できる。</p> | |
| 今後の計画 | |
| 今後も学年進行に沿って、学修進度が増し、基礎・社会医学・臨床医学にわたる垂直的統合が可能な科目の調整をしていく。 | |
| 改善状況を示す根拠資料 | |
| 資料8 医学科：カリキュラム改善（案）について | |

3. 学生の評価

改善した項目

| | |
|-----------------|-----------------|
| 3. 学生の評価 | 3.1 評価方法 |
|-----------------|-----------------|

| | |
|--|-----------------|
| 基本的水準 | 判定：部分的適合 |
| 改善のための助言 | |
| 評価をより精密に吟味するために、外部の専門家の参画を促すべきである。 | |
| 改善状況 | |
| 学生の臨床実習を含む地域医療教育に協力する学外の医療機関等にて活躍する多職種の指導者に対し、地域医療教育マイスターの称号を付与した。 | |
| 今後の計画 | |
| 評価をより精密に吟味するために、外部の専門家が積極的に参画できる取り組みを継続していく。 | |
| 改善状況を示す根拠資料 | |
| 資料 1 0 令和 5 年度第 1 1 回教授会議事要録（一部抜粋） | |
| 資料 1 1 宮崎大学医学部医学科地域医療教育マイスター称号付与規程 | |
| 資料 1 2 宮崎大学医学部医学科地域医療教育マイスター称号付与実施細則 | |

改善した項目

| | |
|---|-----------------|
| 3. 学生の評価 | 3.1 評価方法 |
| 基本的水準 | 判定：部分的適合 |
| 改善のための助言 | |
| 評価方法の信頼性と妥当性を組織的に検証し、明示することが望まれる。 | |
| 改善状況 | |
| 全学の宮崎大学教育委員会と連携し、教育活動の点検の材料とするため、教務委員会において開講科目の成績分布の検証を行った。 | |
| 今後の計画 | |
| 今後もこの取組みを継続し、評価方法の信頼性と妥当性を組織的に検証する。 | |
| 改善状況を示す根拠資料 | |
| 資料 1 3 令和 5 年度第 3 回教務委員会議事要旨 | |

改善した項目

| | |
|--|----------|
| 3. 学生の評価 | 3.1 評価方法 |
| 基本的水準 判定：部分的適合 | |
| 改善のための助言 | |
| 外部評価者の活用を進めることが望まれる。 | |
| 改善状況 | |
| 学生の臨床実習を含む地域医療教育に協力する学外の医療機関等にて活躍する多職種の指導者に対し、地域医療教育マイスターの称号を付与した。 | |
| 今後の計画 | |
| 今後も外部評価者の活用を進める取り組みを継続していく。 | |
| 改善状況を示す根拠資料 | |
| 資料 1 0 令和 5 年度第 1 1 回教授会議事要録（一部抜粋） 資料 1 1 宮崎大学医学部医学科地域医療教育マイスター称号付与規程 資料 1 2 宮崎大学医学部医学科地域医療教育マイスター称号付与実施細則 | |

改善した項目

| | |
|---|---------------|
| 3. 学生の評価 | 3.2 評価と学修との関連 |
| 質的向上のための水準 判定：部分的適合 | |
| 改善のための助言 | |
| 評価結果を適切に開示し、具体的、建設的、公平で時機を得たフィードバックをすべての学生に行い、学生の学修を促進することが望まれる。 | |
| 改善状況 | |
| 学生の学業成績を年に 1 度、学資負担者（保護者）宛てに送付している。さらに、原級した者には、グループ担当教員との面談を義務付けるなど、学生の学修を促進している。 | |
| 今後の計画 | |
| 今後も評価結果を適切に開示し、具体的、建設的、公平で時機を得たフィードバックをすべての学生に行い、学生の学修を促進していく。 | |

| |
|---------------------------------|
| 改善状況を示す根拠資料 |
| 資料 1 4 学資負担者への成績通知書の送付について |
| 資料 1 5 原級者宛てのグループ担当教員との個人面談について |

5. 教員

改善した項目

| | |
|---|-------------|
| 5. 教員 | 5.1 募集と選抜方針 |
| 質的向上のための水準 判定：部分的適合 | |
| 改善のための助言 | |
| 科目責任者のみならず、すべての教員の選考において、使命の達成や地域への貢献について求めることが望まれる。 | |
| 改善状況 | |
| 全学の教育質保証・向上委員会において検討されていた「宮崎大学の職員像」が、教育研究評議会（令和5年9月28日開催）において承認された。今後は、この「宮崎大学の職員像」に定める教員像を踏まえた教員選考が行われる。 | |
| 今後の計画 | |
| 今後もすべての教員の選考において、使命の達成や地域への貢献について求めていく。 | |
| 改善状況を示す根拠資料 | |
| 資料 1 6 求める職員像について（令和5年9月28日教育研究評議会資料） | |

改善した項目

| | |
|----------------------|----------------|
| 5. 教員 | 5.2 教員の活動と能力開発 |
| 基本的水準 判定：部分的適合 | |
| 改善のための助言 | |
| 教員の教育活動を確実に評価すべきである。 | |
| 改善状況 | |

| |
|---|
| 宮崎大学医学部教員の個人評価実施要項を改正し、教員の個人評価の評価項目として、学生支援に関する実績を追加した。 |
| 今後の計画 |
| 引き続き、教員の教育活動を確実に評価する制度の充実をはかる。 |
| 改善状況を示す根拠資料 |
| 資料17 宮崎大学医学部教員の個人評価実施要項 |

改善した項目

| | |
|--|----------------|
| 5. 教員 | 5.2 教員の活動と能力開発 |
| 基本的水準 判定：部分的適合 | |
| 改善のための助言 | |
| 個々の教員がカリキュラム全体を確実に理解できるような方策を講ずるべきである。 | |
| 改善状況 | |
| 新入生の教育課程表を教授会に提出し審議している。さらに臨床実習教育協力病院連絡協議会においても、医学部医学科6年間の教育課程を説明している。さらに、令和6年度から基礎教育が教養教育としてカリキュラムが再編されることに伴う説明会について周知した。 | |
| 今後の計画 | |
| 今後も個々の教員がカリキュラム全体を確実に理解できるような方策を講じていく。 | |
| 改善状況を示す根拠資料 | |
| 資料18 教授会（2024年2月7日）次第 | |
| 資料19 令和5年度臨床実習協力病院連絡協議会次第 | |
| 資料20 令和6年度以降の教養教育カリキュラムの編成に係る説明会について | |

6. 教育資源

改善した項目

| | |
|--|-----------|
| 6. 教育資源 | 6.1 施設・設備 |
| 基本的水準 判定：部分的適合 | |
| 改善のための助言 | |
| 患者および学生の安全のために、患者と接するすべての実習前にワクチン接種を徹底すべきである。 | |
| 改善状況 | |
| 臨床実習生（245人）を対象としたインフルエンザワクチン接種を実施し、169人に接種をした。 | |
| 今後の計画 | |
| 今後も患者および学生の安全のために、患者と接するすべての実習前にワクチン接種を徹底していく。 | |
| 改善状況を示す根拠資料 | |
| 資料21 令和5年度インフルエンザワクチン接種要項 | |

改善した項目

| | |
|--|------------------|
| 7. プログラム評価 | 7.1 プログラムのモニタと評価 |
| 基本的水準 判定：部分的適合 | |
| 改善のための助言 | |
| 課題として挙げられている「原級者（留年者）」数と国家試験合格率について、検討し対応すべきである。 | |
| 現在の状況 | |
| 教育プログラム評価委員会（令和6年5月28日開催）において、国家試験が不合格となった者の原級状況について調査することとなった。 ※令和6年6月26日教務委員会報告、7月3日教授会報告 | |
| 今後の計画 | |
| 引き続き、課題として挙げられている「原級者（留年者）」数と国家試験合格率について、分析を重ねながら対応していく。 | |
| 改善状況を示す根拠資料 | |

資料 2 2 令和 6 年度第 1 回教育プログラム評価委員会議事要旨

改善した項目

| | |
|---|---------------------|
| 7. プログラム評価 | 7.2 教員と学生からのフィードバック |
| 基本的水準 | 判定：部分的適合 |
| 改善のための助言 | |
| <p>学生と教員からフィードバックを系統的に求めた上で、その結果を確実にプログラムの改善につなげることが望まれる。</p> | |
| 改善状況 | |
| <p>教育プログラム評価委員会において、学生委員から、学生会が実施している授業評価アンケートの結果について報告がなされる予定。</p> <p>※令和 6 年 6 月 5 日教授会報告</p> | |
| 今後の計画 | |
| <p>今後も学生と教員からのフィードバックを系統的に求め、その結果をプログラムの改善につなげていく。</p> | |
| 改善状況を示す根拠資料 | |
| 資料 2 3 令和 6 年度第 1 回教育プログラム評価委員会次第 | |

改善した項目

| | |
|---|---------------|
| 7. プログラム評価 | 7.3 学生と卒業生の実績 |
| 基本的水準 | 判定：部分的適合 |
| 改善のための助言 | |
| <p>卒業生の実績に関するデータを収集し分析する体制を整備するべきである。</p> | |
| 改善状況 | |
| <p>教育プログラム評価委員会において、卒業生アンケートを実施したが、回答数が少なくデータとして信頼性に欠けるのでフィードバックはしないことになった。しかし、自由記述欄の意見については、教職員・学生にフィードバックすることとした。</p> | |

| |
|------------------------------------|
| 今後の計画 |
| 今後も卒業生の実績に関するデータを収集し分析する体制を整備していく。 |
| 改善状況を示す根拠資料 |
| 資料 2 3 令和 6 年度第 1 回教育プログラム評価委員会次第 |